継ないでよかったSPC

承継インタビュー Vol.3　2021.05
(有)すみ企画

継ないでよかったSPC

SPC GLOBAL 第 31 代承継プロジェクト実行委員会

STAFF

Publisher / SPC GLOBAL

Editorial department
/ SPC GLOBAL 第31代承継プロジェクト
継ないでよかったSPC 別冊編集チーム
加藤 武彦(東海統括本部)
長島 正男 (中央統括本部)
比嘉 薫(中央統括本部)

Edition in chief / 山崎 博文 (㈱d2 Factory)

Production and design / ㈱d2 Factory

Title design / 大野 勝彦

Illustration / 照喜名 重樹 (㈱CREATIVE SHEEP)

© 編集・制作

SPC GLOBAL
〒150-0012 東京都渋谷区広尾1-1-33
TEL 03-6418-0511　Fax 03-6418-0514
H.P. http://www.spc global.jp

㈱d2 Factory
〒135-0048
東京都江東区門前仲町1-13-12-701
TEL 03-5615-8325　Fax 5615-8326
H.P. http://www.darc.co.jp

※本誌掲載の記事、写真・イラストの
無断転載を禁じます。

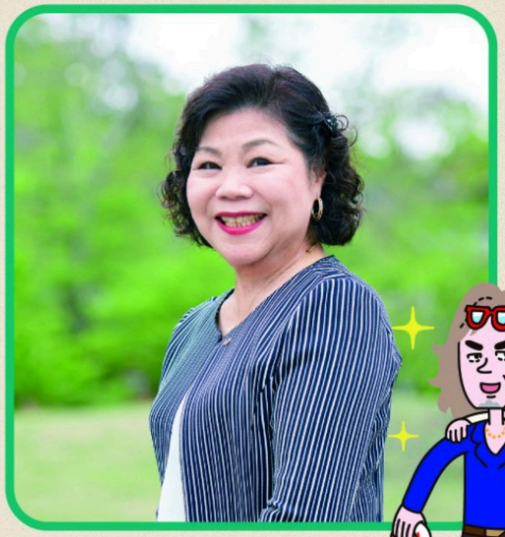
21・5・16

SPC GLOBAL

継ないでよかったSPC

今回ご紹介する企業：
（有）すみ企画

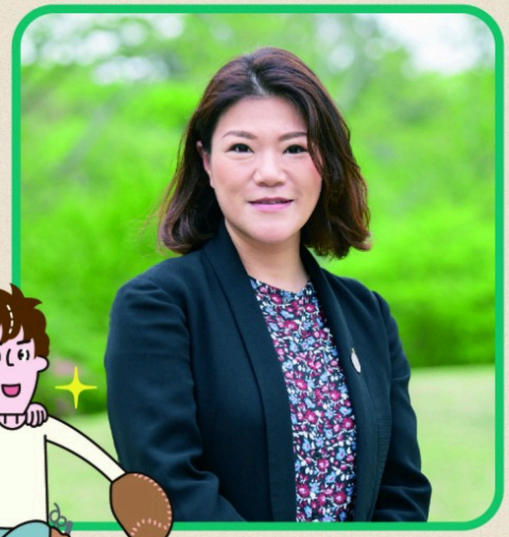
Pitcher



稲葉 澄子（いなば すみこ）

- 1949 年 4 月 4 日生まれ（現在 72 歳）
- SPC 入会：1994 年
- 所属：東海統括静岡本部
- 出身地：静岡県
- 主な修行先：伯父の美容室
- 家族構成：夫・長男・長女
- 創業又は承継時の店舗数：１店舗

Catcher



稲葉 純子（いなば じゅんこ）

- 1976 年 3 月 25 日生まれ（現在 45 歳）
- SPC 入会：2005 年
- 美容技術経験：あり
- 経歴：山野美容学校卒業後、花形企画（株）で修行。２年後、体調不良の為に帰京し、自社に入る。
- ピッチャーとの関係：実子（長女）
- 現在のポジション：代表取締役社長（2018 年より）

経営理念

社訓：「凡事徹底」 基本精神：「感謝・素直・謙虚」 経営ビジョン「Love&Happiness」

理念：一、私達はお客様に美しくなって頂くことを喜びとします。
一、私達は出会いを大切にし笑顔と安らぎを贈ります。
一、私達は豊かな生活を送るためにチャレンジ精神をもって向上していきます。

事業所概要

社 名	（有）すみ企画
代表者	稲葉 純子
所在地	静岡県富士宮市貴船町 9-24
設 立	1973 年 10 月 10 日
事業規模	美容室６店舗、犬の美容室１店舗
従業員数	43 名

資産表

資本金	500 万円
年 商	2 億円
粗利益率	83.4%
借入金	1700 万円
不動産	事務所・美容室３店舗
株 式	現状会長 60%・社長 40%、譲渡計画有

現状の組織図

代表取締役会長：稲葉 澄子
代表取締役社長：稲葉 純子
教育部長：小長井 一弘（純子さんの夫）

美容室 6 店舗

- デラモードインスミ 貴船本店
- ル・シード 富士店
- 美容室 fu・fu
- デラモードインスミ 蒲原店
- ル・シード 田中店
- アルクール 前田店 ＋アルクールスマイル（癌患者専門美容室）

犬の美容室 1 店舗

- アルクール・わん

Homepage
http://www.sumikikaku.jp

主な集客サイト
Best-salon Beauty web Magazine

承継は自分がどう育てたか、経営者としての「通信簿」

世界文化遺産である富士山を有し、富士山本宮浅間大社の門前町として古き時代より栄えてきた静岡県富士宮市。今回はその町にしっかりと根付いている東海統括静岡本部の稲葉澄子さんと娘の純子さんが経営する「(有)すみ企画」を取材させて頂いた。すみ企画は再来年で50周年を迎え、100年企業を目指すという。

創業の経緯

美容師をしていた澄子さんは24歳の時に結婚し、すぐに子供を授かった。旦那様は大手企業にお務めで、生活も安定。義両親と同居だった為、家事や育児の手も足りていた為、趣味でやるお店として、住居隣に6坪の小さな美容室を開業した。

旦那様は「女性は子育てを何より優先すべき」という考えで、長男の後に授かった長女の純子さんが義務教育を果たすまでは、こじんまりと営業していたそうだ。

そして娘が高校に進学すると「これからは自分の人生として自由にやらせてもらおう!」と経営を学ぶためにSPCに入会した。

それからは静岡本部の立ち上げと同時に、仲間と共にサロン経営について勉強し、バリバリと人を育てて多店舗展開にチャレンジ。地元の同業者から一目置かれるやり手の美容室経営者として驀進し始めたのであった。

母は策士

純子さんは幼少の頃から「美容師だけにはなりたくない」と思っていたそうだ。母は土日も仕事で、授業参観もスタッフが代理で出席。「お前、パーマ臭い!」と同級生にからかわれたり、洗濯物はいつも髪の毛でチクチクしていた。

そんな純子さんが美容学校に進学したのは「大学に行くなら家から通えるところにしなさい。でも、美容学校に行くなら東京に行ってもいいよ」という母の言葉。東京に憧れていた純子さんは美容学校への進学を即決したそうだ。

また就職先においても、学校から紹介されたサロンの中から自分で決めるつもりだったそうだが「SPC会員さんのサロンも受けてみれば?」と言われ、あれよあれよという間に中央統括本部の花形さんが経営する「花形企画」への入社が決まった。

純子「修行先がどっぷりSPCカラーだったので、握手もパンチも讃歌も当たり前でした。私は花形社長が大好きで、SPCに行けば会える機会がもっと増えると思って、自分から入会を希望したほどです。だからSPCには何の違和感もなくすんなりと馴染めました」

想定外の修行

純子さんはコンテストにも率先してチャレンジしたが、スタイリストまであと少しという時に倒れるまで無理をして、そんな状況を知った父から強制的に帰郷を命じられた。

澄子さんと花形さんとの間では「店長になるまで5年ほど預かる」という約束を交わしていたそうだが、たったの2年でスタイリストにもなれていない状況での帰郷となった。

地元に帰ってからは他店を複数面接したが、母の存在が有名過ぎて何度も落とされ、仕方なく実家の店に入るしかなかったという。澄子さんとしても、それなりの実力を身に付けてから自社に迎え入れたいところであったが、止むを得ない状況であった。

澄子さんはスタッフの指導は大変厳しいところがあったが、幹部から「そこまでしなくても…」と言われるほど娘の純子さんにはより厳しく育てた。

承継のカタチ

純子さんが自社に戻った時は2店舗で、程なくして3店舗目をオープン。新店を軌道に載せるのに一役買った純子さんは幹部からも評価され始めた。

その頃から純子さんは自社の承継を意識し始めたそうだが、それについては長男も交えて家族会議を行ったそうだ。

「嫌になったらいつでも辞めてやる!」と考えていた純子さんだったが、その時しっかり腹を決めて、承継の準備に入ったようだ。

また、純子さんも美容学校時代にご縁のあった男性と結婚し、それまで東京でバリバリと美容師をしていた旦那様が自社に入ることになった。そこから新店舗の出店が続き、澄子さんは「男だし、やはり婿さんに社長をさせるべきでは」と一度は分社化したが「自分は経営者向きではないから、純子さんを支える側になりたい」との申し出で、再び会社を一本化した。

純子さんがSPCに入会した1年後には「いきなり多店舗の社長をやらせるよりは…」と店を1店舗買い取らせ、運営をさせてみたそうだ。

そして2018年、会社が45周年を迎えると同時に正式に事業承継が成された。

絆の架け橋

承継とはただの通過点で、稲葉さん親子は長い時間、共にスタッフを育て、会社を大きくしてきた。

母娘という関係だけあって意見が対立すると、とんでもない大喧嘩になることもしばしば…。

「あんたなんか出ていけ!」「こんな会社辞めてやる!」

関係がギクシャクして空気感が悪い中、純子さんは社員を巻き込んでしまっているようでいたたまれない気持ちの時は、いつもSPCの先輩や仲間たちに話を聞いてもらってきたそうだが、

「会社を想う気持ちが強くてぶつかり合うのだから、そんなのもっとやったらいい!その熱い姿は社員にも堂々と見せるべきだ!」

という故・横山室長からの言葉でとても楽な気持ちになれたのだという。

またSPCでの大きな学びは「求心力と巻き込み力」。これを組織で練習し、自社に落とし込むということ。

すみ企画では花形企画のやり方を丸々取り入れて、自社を確立してきたが、やり方も在り方も、全てはSPCが架け橋となって親子が繋がってきた。

「私は人巡りの運がいい!」と澄子さんは笑って話してくれた。

Sumiko-Inaba

Junko-Inaba

「すみっこ」から「すみファミリー」へ

◀本店のデラモードインスミ

闘病と団結

澄子さんは2008年、大腸癌を患い、ステージ4で余命宣告を受けたという経験をお持ちだ。

「自分が居なくなるかもしれない」そう覚悟を決めた澄子さんは、自分を長年支えてきてくれた右腕・左腕の幹部に遺言としてこう言った。

「今後は純子が社長を引き継ぐけれど、何か気に入らない事とかがあったら、**あなたたちが社長に物申すようにしないと、他の社員がかわいそう**だよ！」

そんな経緯もあってか、純子さんと幹部の方たちはさらに良い関係性を築くことができた。

純子「母の幹部たちがいたからこそ、ここまで来れました。今でも何かを決める時には、必ず幹部たちに意見を求めています。私よりずっと長く母と現場に居た分、そのイズムが入っているのは幹部たちだからです」

この澄子さんの闘病は、純子さんだけではなく社員さんたちにとっても仕事に奮闘する起爆剤となり、みんなが一丸となって店を繁盛させ、SPC東海大会では入賞者数の記録を更新させた。幸いにも治療が成功し、現在でもご健在な澄子さんはこう語る。

澄子「癌になった時ほど、SPCに感謝したことはありません。自分が闘病していても、店はまわるのですから。昔、SPCの先輩に『**月給100万取れなきゃ社長じゃない！**』と言われた事がありまして、まずはそこを目指して会社を作ってきたんです。ここまでの会社にできたのもSPCのお陰です！」

イズムの承継

澄子さんはスタッフを雇い入れる時に「**自分の子供**」**として受け入れ**、どんなスタッフにも実の母のように**厳しく、そして温かく**育ててきた。仕事上においてだけでなく、プライベートでも困っていたら手を差し伸べる。叱る時はとことん叱り、教育にもお金をかけ、何かという時には手作りの料理を差し入れ、**親密な関係性を構築**している。そんなすみ企画の風土をお二人はこう語る。

純子「会社を継いだ時、理念も社名も何もかも自由に変えていいと言われましたが、その時、**絶対に変えてはいけない！**と思いました。変えるのはいつでもできるけれど、母がこれまで大切にしてきたことを**守り抜くのが私の役目**なのではと。なので、それらを変えずに『ラブ&ハピネス』という経営ビジョンを付け加えました。

母が実の子供のように社員を育ててきたので、うちの社員はこれまで『**すみっ子**』と呼ばれてきました。でも、社員には私より年上の方も居るので、私は『子供』としてではなく『**家族**』として受け入れ『**すみファミリー**』と呼ぶようにしました。

会議や研修、締め日などでの食事の差し入れも、以前は何か美味しいものをどこかで買ってあげれば良いとも思っていましたが、そこはやっぱり**伝統の『社長飯』**として手作りし、**胃袋をガッツリ掴む**ことも引き継いでいます」

澄子「私はこれまで自分の好き勝手にやってきたので、娘には娘の人生があるから、絶対にこの会社を引き継いで欲しいとは思っていませんでした。だから**継いでくれたことは、最高の親孝行**をしてもらったなと感じています。

また経営者というものは、社員に感謝して美味しいものを作って労ることくらいしかできません。**義理人情は日本の美徳**です。それが無くなったらダメだと思っています」

▲ガンになった経験を書いた澄子さんの本

▲冷めても美味しいようにと考えて作られている社長飯の数々

未来の展望

すみ企画では、コンセプトを明確にした個性豊かな美容室を6店舗経営しているほか、障害者の送迎サービスを行っていたり、癌患者専用の個室美容室を作ったり、ペットと一緒にキレイになれるよう犬の美容室を併設したり、地域のお客様のニーズに応えるニッチなサービス事業を展開している。

澄子「もともと生活のために美容室を始めたわけではないので、何か新しいことを始める時にも『これで儲けよう』という発想が今でも無いんです。スタッフが頑張ってくれて、地域のお客様にご愛顧頂いて、それで今の生活が安定しているので、その『**恩返し**』ができればと事業を展開してきました」

それを1番近くで形にしてきた純子さんは、今後どのような展望を描いているのだろうか。

純子「これまでも店舗展開や人材育成は母と共にやってきたので、正直なところ今は店舗の拡大においては燃え尽き症候群というか…。

でもとりあえずやりたい事は2つあって、ひとつは障害者送迎サービスの次のステップとしての『**訪問美容**』。新たに店舗をもたずに、サロンワークをドロップアウトした美容師免許を持っている人材を活用したいと考えています。もともと福祉の仕事に興味があったので、**高齢化社会できっとお役に立てるし、美容業界の為にもなる**と思います。

もうひとつは、**地元企業とのコラボレーション**。私自身、家事と育児と経営と現場、いろいろやりながら生活しているので、この『**ながら**』というものを大切にして行きたいと思っています。

スーパーに寄るほどでは無いけれど、何か買えたら夕飯のおかずが助かるかも…と考えて**美容室のレジ横に野菜**を置いてみたり、髪がキレイになったついでに体も元気になれたら…と思って、**着付け部屋にカイロプラティック**を呼んだりして、お客様にとても喜んで頂いているのですが、こういった『**ながら**』**の事業展開**をお金をかけず、既存の地元企業とコラボして広げていけたらと思っています。

また、SPCでは東海承継プロジェクトに携わっているので、自分自身の経験談をこれから承継する仲間たちに伝えて、少しでもお役に立てたらと考えています」

このように、すみ企画の事業展開は「**天も頷き、他者も喜び、己も良し**」！まさに三しん哲学を体現している。さすが、親子二代でSPCで学んできただけある。

SPC会員が目指すべきものは、ただの「繁盛店づくり」では無い。「**地域一番の信頼店づくり**」である！より多くの人々の喜びに繋げていく事こそ、成功の近道なのかもしれない。

地域に愛されて根付く為には、何か大きな事で寄与する必要は無い。純子さんが座右の銘にもしている「**コツコツ勝つコツ**」という言葉の通り、地道なことを長く継続することである。その為にも、企業の長期存続を視野に、実子であれ社員であれ、「**承継**」**というテーマの重要性**を是非考えて頂きたい。

▲毎年節分には2升のご飯をたいてスタッフ全員分の恵方巻を作っている